

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	村田 亜紀子 （ むらた あきこ ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 66 回日本社会医学学会総会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	村田 亜紀子, 関口 貴美子, 徐 桜哈, 岩垣 穂大, 扇原 淳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	看護学生の学習意欲向上のための言葉かけに関する研究
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）	
【目的】 近年の看護系教育機関への入学者は、震災やコロナ禍を経験し、人間関係の希薄化や生活体験の不足といった課題を抱えていることが指摘されている。また、経済的理由からアルバイトに従事せざるを得ず、それが学業に影響を及ぼしているとの報告もある。こうした状況においては、経済的支援に加えて、学生の学習意欲を高めるための心理的・教育的な支援の重要性が増している。その中でも、教師による「言葉かけ」が学生の学習意欲に与える影響が注目されており、とりわけ内発的動機付けとの関連が示唆されている。そこで、本研究では、看護学生と看護教員を対象とした混合研究法を用い、看護学生の学習意欲を高める効果的な言葉かけの特徴を明らかにすることを目的とする。 【研究 1】対象・方法： 2024 年 5 月 8 日～5 月 20 日の間、都内看護専門学校 A 校 3 年課程 1・2 年生 67 名を対象にアンケート調査を実施した。内容は、①やる気になった言葉、②やる気をなくした言葉、③いつどのように言われると嬉しいか、とし、文字データを KJ 法にて分析した。 結果： 文字データをラベル化し、カテゴリー分けをして「 」で示した。『やる気になった言葉』として「負荷を与えない」「助言」「受容」「指導・教示」「励まし」「称賛」「応援」「信頼」「興味関心への刺激」「否定」「指摘」の 11 のカテゴリー、『やる気をなくした言葉』は「否定」「指摘」「追い打ち」「理不尽」「理由攻め」「能力不足」「要求」「無思慮」「怒る」の 9 カテゴリーを抽出した。 【研究 2】対象・方法： 2024 年 8 月～11 月の間、同校の看護教員 3 名に、個別に 2 回（60 分、10 分程度）対面での半構造化インタビューを実施した。インタビュー内容は、①学習支援を行う際に意識していること、②学生にどのような言葉をかけているか、③学生と関わる中で、学生のどんなことをキャッチしているか、④実際の関わりの中で良かったこととその理由、困ったこととその理由、⑤昔と今の指導方法の違い、⑥記憶に残っている事例、の 6 項目を基本とし、会話に応じて追加した。3 名のライフストーリーから逐語録を作成し、質的記述的分析を行った。 結果： インタビューの逐語録から 249 コードを抽出し、17 のサブカテゴリーと 5 つのカテゴリー『変わってきている学生像』、『学生の学習意欲を見る視点』、『教員のかける言葉とその特徴』、『学生の学びに対する教員の姿勢』と『教員の思いや努力』が抽出された。 【考察】 看護学生それぞれの成育歴や成育環境、その時々感情も学習意欲につながることは、吉川・三宮（2007）の研究と同様の結果が得られた。「受容」や「励まし」、「称賛」などの『学生の学びに対する教員の姿勢』や「否定」のない安心感をもたらす肯定的な言葉かけが学生の行動を促し、自己効力感の向上や内発的動機付けが促進され、学習意欲向上につながる可能性が示唆された。教員は省察を心がけ、今後は学習意欲が低下している学生を対象とするなど、調査対象をより広げ、適切な学習環境構築に寄与する研究が求められる。	

※無断転載禁止